

おおきに健康 歯とお口から

Vol.04
News
Letter

大阪大学歯学部附属病院 広報誌 <http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/>

口腔医療に特化した 大学専門病院



副病院長 古郷 幹彦

一般に大学病院は、様々な機能を備えており、特に国立大学病院は、国民のみなさんが直接大学をご利用になる場所です。大阪大学歯学部附属病院は、口の病気・口の機能異常の治療に特化した病院として、みなさんにご利用いただいております。世界の先端を走る医療から基本的治療まで、口の治療については是非ご相談いただきたく存じます。

当歯学部附属病院は、いわゆる大学総合病院に比べればコンパクトではありますが、それだけ専門分野に集中して知財を投入し、最高の口の医療を提供できると考えております。近年設置しました3つのセンター（口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センター、近未来歯科医療センター、国際歯科医療センター）は、まさしく口に特化した病院として、口の難病克服への象徴となるものです。口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センターでは手術・言語・歯列矯正などの連携治療、近未来歯科医療センターでは再生医療・インプラント治療、国際歯科医療センターでは歯科医療の国際化という、当院ならではの特性を発揮できるようにしております。

長い歴史を持つ口腔医療の先進的専門病院として、みなさんの健康にお役にたつよう、全診療科・全スタッフあげて努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

内面

- 特集 1.
当院でインプラント治療を希望される方に
—近未来歯科医療センターのご案内—
- 特集 2.
顎口腔機能治療部のご紹介
- 特集 3.
看護フェア開催
高校生の看護体験受け入れ

お口の相談コーナー・お口のマメ知識

裏面

- 4月～6月の統計情報
- 病院概要とお知らせ



● 特集 1

当院でインプラント治療を希望される方に —近未来歯科医療センターのご案内—

和田 誠大 / 中野 環



図 1

歯学部附属病院3階に近未来歯科医療センターが設立されて現在で5年が経過しました。当センターには、コンサルテーションルーム2室と高度な清潔環境に維持された手術室が4室あり、長時間の手術も快適にお受けいただける治療チェアや手術顕微鏡、レーザー装置など最新の設備を整えております。(図1、2)。当センターでの治療内容は、インプラント埋入(埋め込み)手術に加え、再生療法を含む歯周外科治療や歯根端切除療法などの歯の保存を目的とした外科処置を専門とし、年間これらの手術を約500件程度施行しております。また同センターには、CPC (Cell Processing Center: 細胞培養センター) が併設されており、細胞培養技術を用いた再生療法を患者さんに適応するための準備を行っております。

●インプラント治療の種類

インプラント治療は、歯を失った場合の非常に有効な治療方法として現在適応されており、当院でも多くの患者さんがその治療結果に満足されています。インプラント治療は、基本的に固定性装置ですので、天然の歯に近く、取り外しの必要がないため、天然の歯と同程度の力で噛むことが可能です。(図3)

さらに、インプラント治療のメリットとして、固定性のみならず、入れ歯とのコンビネーションが近年注目されています。こうすることで入れ歯でも、痛みが少なく良く噛めるようになったり、また外れにくくすることも可能です。(図4)

その一方で、インプラント治療そのものがすべての患者さんに適応できるわけではなく、外科手術が必須であること、自費診療であること、そして治療期間が長いなどデメリットも存在します。

インプラント治療にご興味がありましたら、担当医にまずご相談ください。



図 2



図 3

図 4

	ブリッジ	義歯(入れ歯)	インプラント治療
模式図・写真			
利点・欠点	○ 見た目が良い × 健康な歯を削る必要あり × 喪失歯が多いと非適応	○ 歯を削る量はずか × 噛み応えが悪い × 噛むと歯ぐきが痛い × 見た目が悪い × 食べ物が入歯の下に入る	○ 見た目が天然歯と同じ ○ 健全な歯を削る必要がない ○ 噛み応えが天然歯と同じ ○ 噛んでも歯ぐきの痛みはない ○ メンテナンスが天然歯と同じ × 治療長い、高額、外科侵襲
コスト	健康保険 銀歯3本のブリッジ(約4000点) ⇒3割負担 12,000円	2本欠損の義歯(約3000点) ⇒3割負担 9,000円	×
	自費 セラミックの歯で3本で 約30万円	金属床義歯(2本欠損)で 約25万円	1本の埋入で 約40~50万円

● 特集 2

がくこうくうきのうち 顎口腔機能治

当部は歯科のプロである歯科医師・歯科衛生士だけでなく、言語聴覚士という言語の専門職が連携して口の機能障害の治療を行う部門です。

スピーチ外来

発音がはっきりしない症状(構音障害)を専門として、主に口蓋裂や口腔腫瘍の患者さんのことばの治療を担当しています。院内の他の科はもちろん、他の医療・福祉施設や学校などと連携して、幅広いコミュニケーションのサポートを目指しています。構音障害は病気のないお子さんや成人の方にも見られることがありますので、発音のことでお悩み

お口の相談
コーナー



「歯科診療で使用されるCT撮影について」

放射線科 講師 柿本直也

歯科診療においてもCT検査の重要性が高まっています。特に、インプラント治療、歯根破折(歯の根もとが欠けたり、折れたりすること)、口腔外科的疾患などについては必要不可欠とも言えるほどになっています。当院のCT装置としては、医科用CT装置(図1)と歯科用CT装置(図2)の2種類が設置されており、病気や状況に応じて使い分けされています。医科用CT装置では、患者さんは寝た状

態で撮影され、場合によっては造影剤を使用します。歯科用CT装置では、患者さんは座った状態で撮影されます。いずれも撮影時間は数秒(医科用CT装置)から十数秒(歯科用CT装置)程度ですので、その間はじっとしていただく必要があります。造影剤にアレルギーがある方を除いて、CT検査において患者さんが注意しなければならない全身状態はありません。CT検査では歯や骨の内部、さらには軟組織の状態など詳しい診断が可能ですし、0.1mm~0.5mmといった細かな情報まで把握することが可能です。ただし、放射線被曝を幾ばくか伴います。当院の医科用CT装置の被曝線量は0.6~1.5mSv程度、歯科用

CT装置の被曝線量は0.1~0.5mSv程度です。一般的には歯科用CT装置の方が被曝線量は少ないですが、被曝線量のみでは考慮できない要因がありますので検査については主治医の先生とよくご相談ください。ちなみに医療被曝研究情報ネットワーク(J-RIME)で発表されている診断参考レベルのCTDvolは頭部検査の場合85mGyですが、当院の顎顔面部検査は45mGy程度と少ない線量設定で撮影しております。当院放射線科では、「適切な検査と正確な診断・治療」のモットーのもと、患者さんのより快適な診療のために画像情報を提供しております。



図 1



図 2

看護フェア開催

看護部長 西尾善子



毎年5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由来し、厚生労働省が「看護の日」と制定し、12日を含む1週間が「看護週間」となっています。

歯学部附属病院でも、地域のみなさんが身近に看護にふれていただけるよう「看護フェア」を5月15日に玄関ホールにて行いました。

「計測コーナー」や「相談コーナー」を設け、みなさんが、日頃から自分の血圧値や体重・体脂肪(BMI)値を知り、生活習慣病予防に心がけることが目的です。実際に計測した結果をもとに一人一人が日常生活で気を付けることやバランスの良い食事の取り方等の説明を行いました。また、個別に高血圧・糖尿病食などの治療食の紹介や看護相談、口腔ケアグッズの紹介等を行いました。

このイベントは毎年行なっていますが、好評を得ています。

高校生の看護体験受け入れ

6月25日に大阪府看護協会の要請により、北摂地域の高校生2名を受け入れ、「ふれあい看護体験」を行いました。入院患者さんとの談話や洗髪、清拭・沐浴の見学、経管流動食の準備、配膳下膳、病院食の試食等実際の体験を通して、誰もが助け合う心や生命の尊さを感じていただけたと思います。そして、将来の進

路の選択肢の一つとして看護の魅力や仕事の重要性を理解してもらえ良い機会となりました。



療部のご紹介

顎口腔機能治療部 杉山千尋

でしたら一度ご相談ください。

摂食嚥下外来

口腔腫瘍、脳卒中、神経疾患(パーキンソン病など)、脳性麻痺や発達の遅れなど様々な理由で嚥下障害をお持ちの患者さんの治療・訓練を行っています。ご来院時の検査や訓練をもとに、普段の食事と取り組めることをご提案いたします。必要に応じて内視鏡や嚥下造影検査(VF)(図1)を行います。



図2 睡眠時無呼吸症の治療用口腔内装置(OA)

睡眠時無呼吸症の診断は医科大学の医院・病院の受診が必要です。連携医療機関へのご紹介も可能です。

*鼻に装着したマスクから空気を送り込み、睡眠時の気道を確保する装置

ドライマウス外来

唾液の量や保湿力の低下による口の乾燥をドライマウスと言い、口の違和感、虫歯や歯周病、口臭など様々な症状につながります。ドライマウスはシェーグレン症候群や放射線治療後の症状として知られていますが、ストレスや常用薬の副作用であることも多いのです。生活習慣の改善、薬の変更、保湿ジェルやリンスを用いた対症療法など患者さんに最適な方法で症状の改善を図ります。唾液の量を増やす薬を処方することもあります。



図1 VF画像

睡眠時無呼吸症外来

CPAP*に次ぐもう一つの治療手段として、マウスピースによる治療を行っています。内視鏡やレントゲン検査で気道の広さを確認し、マウスピースで下顎を前に出すように設定することで呼吸路を確保し、睡眠の質を向上させます。(図2)

「関節リウマチ治療薬と歯肉の潰瘍」

口腔外科2(修復系) 科長 由良義明

お口の
マメ知識

新しい薬は治すべき病気の治療を飛躍的に向上させる一方で、口で新たな病気を引き起こすこともあります。例えば、骨粗鬆症や癌の骨転移を治療する薬として開発されたビスフォスフォネート(BP)や抗体薬を長期間にわたって使用すると、抜歯後の治癒が悪く、骨が死んだ状態となる薬剤関連性顎骨壊死(MRONJ)を起こすことも知られています。最近では関節リウマチの治療でよく用いられる薬のメトトレキサート(MTX)が、リンパ増殖性疾患(MTX-LPD)の原因となることが分かり新たな問題となっています。これは、関節リウマチの薬がからだの免疫機能を抑えるた

めリンパ球が異常に増殖することによるものです。歯肉に生じた場合、歯肉は変色し、粘膜の深い欠損を生じます(写真)。痛みも伴います。また、外見上は歯肉の癌が広がったようにも見えますので、注意が必要です。この病気の特徴は薬剤服用を中止すると症状が改善することで、これが診断の決め手となります。ただ、中止しても良くならないものはリンパ性の腫瘍として抗癌剤による治療を必要とします。複数の薬を常用することが当たり前となった昨今では、自身が常用する薬の作用について十分知ることが、口の病気の正しい診断と治療に結びつくこととなります。

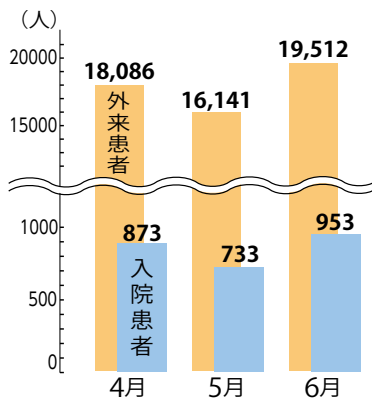
詳しいことは、担当の歯科医師にご相談ください。



右下の臼歯部に白色と赤色が混ざった歯肉の病変(矢印)がみられます。

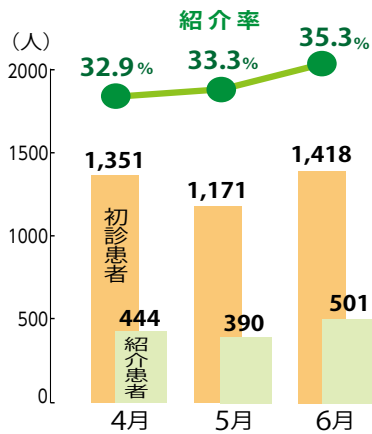
4月～6月患者数等統計

外来患者数・入院患者数

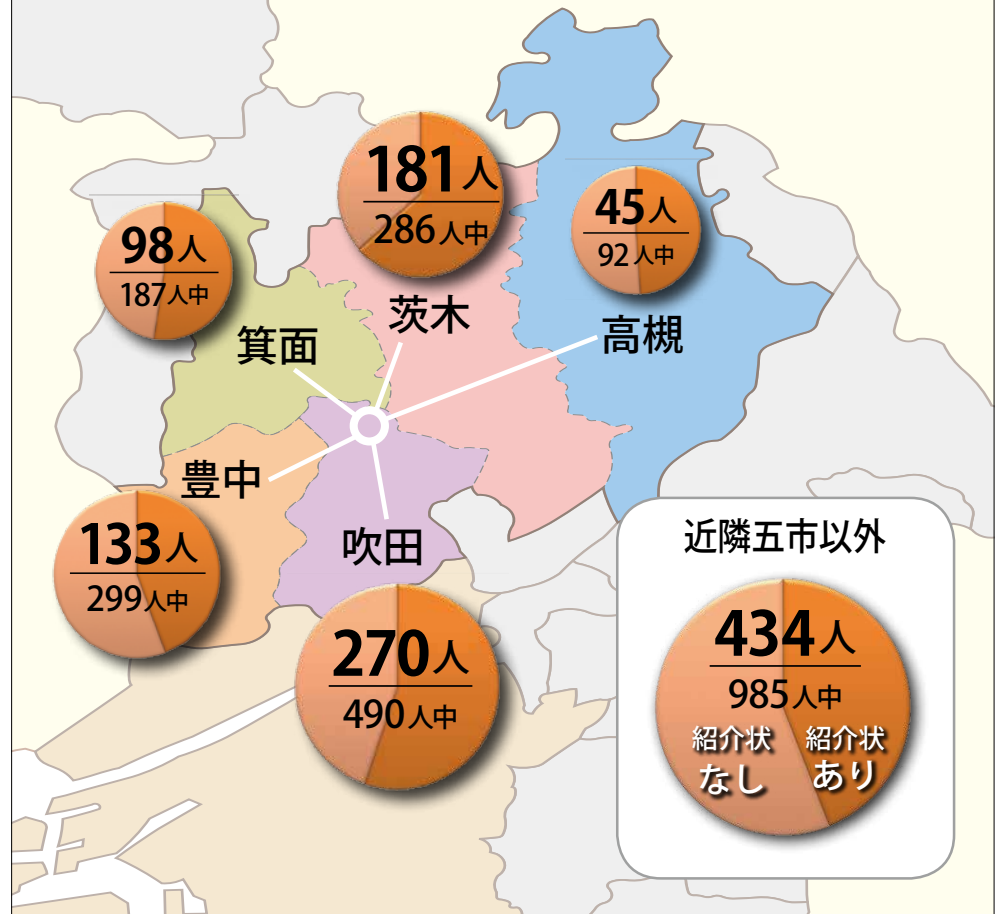


平均入院日数	7.62日	8.01日	7.48日
1日当たり外来患者数	861人	897人	887人

初診患者数と紹介患者数比率



近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数 (4月、5月、6月集計)



近隣五市以外

434人

985人中

紹介状なし 紹介状あり

病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）

【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえお越しください。

入院患者さんへのご面会時間は、12時から19時となっております。

病院へのアクセス

http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html

歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください。

看護師募集中！

—お問合せ—
歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで

